

## ALS-FTD-Q-J 横断調査

わたなべ やすひろ

渡辺 保裕<sup>1)</sup>，伊藤悟<sup>1)</sup>，足立正<sup>1)</sup>，足立芳樹<sup>2)</sup>，花島律子<sup>3)</sup>，荻野美恵子<sup>3)</sup>，西山和利<sup>3)</sup>，木村英紀<sup>4)</sup>，榊田道人<sup>5)</sup>，熱田直樹<sup>5)</sup>，渡辺宏久<sup>5)</sup>，祖父江元<sup>5)</sup>，饗場郁子<sup>6)</sup>，市川博雄<sup>7)</sup>，吉野英<sup>8)</sup>，横田修<sup>9)</sup>，和泉唯信<sup>10)</sup>，矢部勇人<sup>11)</sup>，野元正弘<sup>11)</sup>，長谷川一子<sup>12)</sup>，織田雅也<sup>13)</sup>，楠見公義<sup>14)</sup>，神庭誠<sup>15)</sup>，青木哲哉<sup>16)</sup>，廣江ゆう<sup>17)</sup>，中島健二<sup>1)</sup>

所属：<sup>1</sup>鳥取大学医学部医学科脳神経医科学講座 脳神経内科学分野，<sup>2</sup>独立行政法人国立病院機構松江医療センター神経内科，<sup>3</sup>北里大学医学部神経内科学，<sup>4</sup>東京都立神経病院，<sup>5</sup>名古屋大学大学院医学系研究科神経内科学，<sup>6</sup>独立行政法人国立病院機構東名古屋病院神経内科，<sup>7</sup>昭和大学藤が丘病院脳神経内科，<sup>8</sup>吉野内科・神経内科医院，<sup>9</sup>きのこエスポール病院，<sup>10</sup>徳島大学病院神経内科，<sup>11</sup>愛媛大学大学院医学系研究科薬物療法・神経内科，<sup>12</sup>独立行政法人国立病院機構相模原病院神経内科，<sup>13</sup>ビハーラ花の里病院神経内科，<sup>14</sup>山陰労災病院神経内科脳神経内科，<sup>15</sup>淀江クリニック，<sup>16</sup>赤碓診療所，<sup>17</sup>養和病院精神科

### 研究要旨

筋萎縮性側索硬化症（ALS）と行動障害型前頭側頭型認知症（bvFTD）の行動・性格変化の評価尺度である ALS-FTD-Questionnaire 日本語版（ALS-FTD-Q-J）を用いた縦断検討を開始した。全国 17 施設で、行動・性格変化（ALS-FTD-Q-J）と認知機能（MoCA-J）を中心に ALS 症例，bvFTD 症例の経過を経時的に観察した。認知症のない ALS（ALS-intact）例 21 例，行動障害を伴う ALS（ALS-bi）例 2 例，認知機能障害を伴う ALS（ALS-ci）例 2 例，ALS-bvFTD 1 例でフォローアップ検査の実施が可能であった。うち ALS-intact から ALS-ci へのコンバートが 2 例，ALS-intact から ALS-ci へのコンバートが 1 例，ALS-bi から ALS-intact へのリポートを 1 例認め，それ以外の症例は不変であった。今後症例の蓄積とともに，各群の特徴が描出されるものと考えられる。

### A. 研究目的

我々は筋萎縮性側索硬化症（ALS）および前頭側頭型認知症（FTD）の行動・性格変化の評価に関する多施設共同研究を実施している。昨年の本会議で ALS / behavioral variant 型 FTD（bvFTD）の評価スケールである ALS-FTD-Questionnaire 日本語版（ALS-FTD-Q-J）の日本人における有用性を報告した。原著では ALS-FTD-Q は Frontal Assessment Battery（FAB）や Montreal Cognitive Assessment（MoCA）と中等度の相関し，Hospital Anxiety and Depression Scale（HADS）や運動機能との相関は乏しかった。一方，本邦では HADS との中等度の相関を示したものの FAB や MoCA 運動機能との相関しなかった。現在，

本研究は ALS から FTD への移行する因子を明らかにすることを目的として縦断研究に移行している。

### B. 研究方法

全国 17 施設の共同研究として ALS，ALS-bvFTD，bvFTD 例に対して調査を行った。匿名化の上，臨床情報を得た。ALS 症状を有する例では FBI，ALS Functional Rating Scale-Revised（ALSFRS-R），FAB，MoCA，HADS 他を実施し，初回検査の 6 ヶ月間隔を目安にフォローアップ検査を実施した。初回検査の MoCA（カットオフ値 20 点）および ALS-FTD-Q-J（カットオフ値 29 点）の結果により症例を認知症のない ALS（ALS-intact），行動障害を伴う ALS（ALS-bi: ALS-behavioral

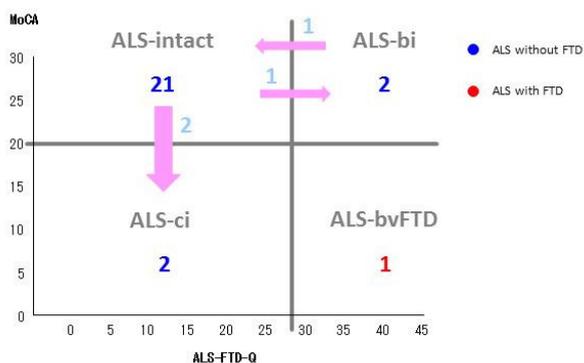
impairment), 認知機能障害を伴う ALS (ALS-ci: ALS-cognitive impairment), ALS-bvFTD の 4 グループに分類し, フォローアップでのコンバーター群, リバーター群, 不変群での因子を検討する.

(倫理面への配慮)

主研究施設での倫理申請の上で, 各施設での倫理申請を行った.

### C. 研究結果および考察

ALS-intact 21 例, ALS-bi 2 例, ALS-ci 2 例, ALS-bvFTD 1 例でフォローアップ検査の実施が可能であった. うち ALS-intact から ALS-ci へのコンバートが 2 例, ALS-intact から ALS-ci へのコンバートが 1 例, ALS-bi から ALS-intact へのリバートを 1 例認め, それ以外の症例は不変であった. 現時点ではコンバート, リバート, 不変に關与する因子に關して一定の傾向を得ていない.



### D. 結論

症例を追加しながらフォローアップ検査を実施している. 症例の蓄積に伴い各群の特徴が描出されるものと考えられる.

### E. 健康危険情報

なし

### F. 研究発表

#### 1. 論文発表

Watanabe Y, et al: Japanese version of the ALS-FTD-Questionnaire (ALS-FTD-Q-J). J Neurol Sci 367: 51-55, 2016.

#### 2. 学会発表

1) Japanese version of the ALS-FTD-questionnaire. Watanabe Y, et al. 27th International Symposium on ASL/MND, Dublin, December, 2016.

2) 筋萎縮性側索硬化症および前頭側頭型認知症の行動・性格変化評価(ALS-FTD-Q-J), 渡辺保裕ほか, 第 57 回神経学会学術大会, 神戸, 2016.

#### 3. 著書その他

なし

### G. 知的所有権の取得状況 (予定を含む)

#### 1. 特許取得

なし

#### 2. 実用新案登録

なし

#### 3. その他

なし